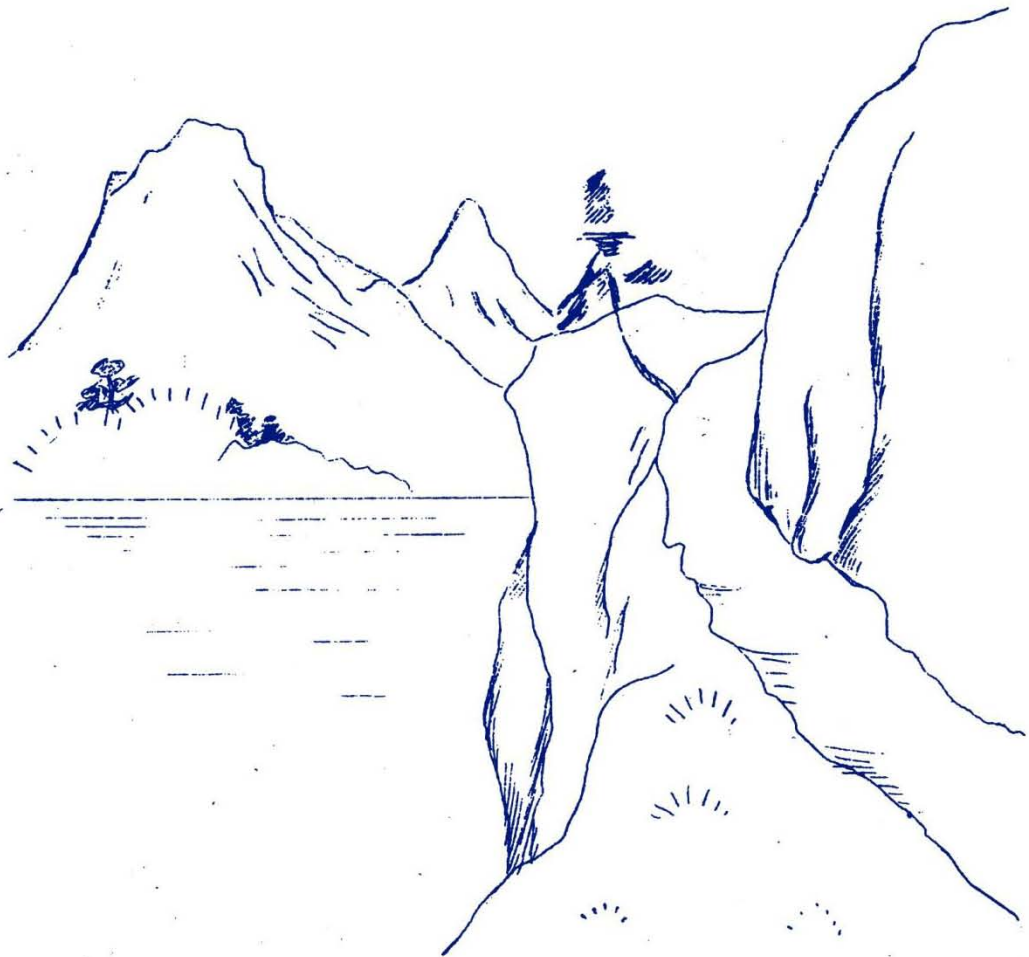


女子の部



女子 ハンドボール部の誕生

田中 工ヤ

浅野和郎さんから、十月始め頃に、此度ハンドボール部高津クラブの「ゴブシ」を作ろうと思うので、何か書くようにとの話がありましたので、クラブの雑誌と思い込んで、校長先生にもそんなつもりで原稿をお願ひし、私も前ページのような事を書いたのですが、編輯中に、お手伝ひして色々話したり、他の方々の原稿を讀んだりして、内には「ゴブシ」は「部誌」の事で無く「部史」である事を知った次第です。又、浅野さんからの話しだったので、男子のクラブの事と思い込んで書きました、女子クラブも合同で作るからもう一度女子の事も書くようにとの話しです、再びここに、女子ハンドボール部創設当時の記憶をたどり、思い出を書く事に致します。

昭和二十九年の末の頃、男子ハンドボール部の人達から、このよその学校では男女クラブがあるのに高津は男子だけで……女子も有れば良いと思ひますが、女子のハンドボール部が出来ると先生はどう思われませんか？と問われ、ハンドボールは起源から言えば、ドイツで女子のスポーツとして

トリアバル（内球）と云うて始められたものであるから、女子のクラブがある事は望ましい、争ひと、私の考えを述べますと、ゴブシや先生、女子のハンドボール部を作られたらどうですか？と話しかけられました。高津のクラブは、教師が作るのが主旨でないでしよう。生徒の中から盛り上げて出まると、クラブのあり方ではないでしようか？とそんな内容が取交され、又教員して、女子のクラブを僕達ではやはり作りにくい。女子の体育を受け持つ先生にやってみてもらはないと、とこんなやりとりがそれから何回も繰返されていりうちに、何の種目でも器用で、運動好きだが、テニスの種目をやめていた二年生の徳美恭子さんに、ふとした機会に男子の人からこんな話があるかと話した所、お母さんもずっと学生時代バレーボール部で通されたスポーツ一家であるだけに、北野さん等、教員の友達と話し合っているうちに、クラブを作っちゃりたくなりました。昭和三十一年の二月頃から急にクラブ作りの話題が活発になりだしました。同じ頃男子の辻本さんや佐竹さん達が同じ一年生の菊井さん達にこの話を打ち掛けたのでトニック（拍子）に進



みました。自治会のクラブ成立の条件に五
 名の發起人と顧問があれば成立するからと
 、私に顧問の依頼がありましたので、お引
 換致す事になり、年度の変わった四月に生
 徒の議会及び職員会議で正式に認められる
 ようになりました。この三十年の四月から
 男女ハンドボール部の顧問を致すことにな
 りました。こうして女子ハンドボール部は
 産声をあげましたが、クラブが本式に活動
 を開始した時には發起人の徳美さんや北野
 さん達は已に三年生で、練習はわずかの間
 で公式戦に出る機会には恵まれませんでした
 が、今宮高校や八尾高校へは応援に来て
 もらったものでした。菊井さん・吉川さん・石
 丸さん達は二年生として活躍、一年生に入
 学した荻原さん・岩瀬さん・波木さん・山口(現在
 長屋)さん等、四月早々から多数の入部者が
 ありました。二年は皆とても熱心に練習
 しました。ペワイールドハンドボールで男子
 と同じルールです。チームワークもとても
 良く、一二年生全員でお正月の五日に私の
 家まで帰ねてまられて、にぎやかな一日を
 過ごしたのも楽しい思い出です。しかしクラ
 ブ創設の年です。から戦績は振いませんでした
 が、二月初旬の室内大会には初出場が
 三位に入賞し、高津女子ハンドボール部の
 名を大いにあげたものです。

その後学校の方針でクラブ顧問を一人一部
 になり女子のみの顧問になった年や男女両
 クラブの係りを二人の先生でした年や男子
 のみ見て来た年と色々な年を経て今日まで
 来ました。大阪府下で一番運動クラブ数の
 多いと言われる高津高校の運動部中最も親
 しみを感じる私にとって、切り離せないク
 ラブがハンドボール部です。

楽しかった
 思い出

昭和32年11月3日、一、二年生
 の男女ハンドボール部全員が、
 京阪天満に集合して私市へハイ
 キングに行きました。三年生の方には入試
 前だから勉強をしてもらはねばならないか
 らと何も話さず内證で行きました。(ふと
 でばして誘ってくれたらと言われました)
 二年生男子の谷口さんは、満員電車の中
 で薪を拵って大弱り。私市からくろくろと池
 まで良く暗れた空の下、賑かに喋りながら
 歩きました。くろくろと池で飯炊さん。楽
 しいスキヤキパーティをして、その後男女
 混合の三人がに令れてボートに乗りまし
 た。皆がボートに乗っている間、私だけが
 池の岸で唯一人荷物番をしていました。か
 、この一時間足らずの時間の長かつた事、
 数時間のようなきがしました。それども、
 とても楽しかった一日です。――終り――